はぎビズだより

第68号
2026年10月発行



森の恵みを暮らしのなかへ
萩・森倫館のヒノキ商品とダイニング体験

森と、まち、人をつなぐ	萩産ヒノキ商品 開発プロジェクト	森を歩き、萩を味わう 「 HINOMA 」

森と、まち、人をつなぐ



萩市の面積のおよそ8割が森林であることをご存知でしょうか？萩・森倫館さまではこの豊かな資源を活かし、森とまち、人をつなぐさまざまな事業を行われています。地域の製材業者と連携した木材製品の企画・販売や、建築家・デザイナーと協力した空間プロデュース。さらに「地域の方々にも、森や木をもっと身近に感じてもらいたい」と、未就学児～中学生を対象とした木育プログラムや、森の中で行うマルシェやワークショップなど自然に親しむイベントも開催されています。

大切にされているのは、森の恵みを活かしながら、その価値を地域の暮らしへとつないでいくこと。歴史あるまち並みで知られている萩ですが、その風景や人々の暮らしの源流には、かならず森があるそうです。萩の風土や文化、受け継がれてきた技術を次の世代へと繋げていく、持続可能なまちづくりを目指されています。

萩産ヒノキ商品開発プロジェクト





豊かな森がある一方、萩で伐採された木のうち、市内で流通・利用されている木材はわずか3%ほど。萩のまちなかでも、木を使った商品に出会える機会はそう多くありません。そこで、萩・森倫館さまを含む森の事業者の連携事業体 "萩森の恵み活用推進協議会"が立ち上げたのが「萩産ヒノキ商品開発プロジェクト」。萩の木を地域資源として活用し、暮らしのなかで使ってもらえる商品にしようという取り組みです。

市内事業者と連携し、木の伐採から製材、加工までを地域のなかで完結できる強みを活かして、萩ならではのヒノキ商品ブランドづくりを進められています。アイテムはタンブラーやお皿、トレーなどの食器・生活雑貨から、テーブルや椅子といった家具まで。ヒノキの自然な風合いや香り、そして萩らしい素朴な美しさを大切に、世代を越えて長く使い続けられる商品づくりを行われています。

森を歩き、萩を味わう「HINOMA」

モノを届けるだけでなく、森の恵みが私たちの暮らしにつながっていることを体感してもらいたい。その思いから誕生したのが、体験プログラム「HINOMA」です。萩の森で育った木が、職人たちの手で形を変え、暮らしのなかで使われていく。そんな繋がりを、萩の食や文化とともに楽しむ特別なツアーです。



まずは森を歩き、木々の香りや自然の空気を感じたあと、昔ながらのまち並みが残る浜崎地区へ向かいます。食事の舞台は、築約200年の商家を活用したレストラン 舸子176。萩産ヒノキの器やテーブルウェアとともに、このツアー限定のコース料理を味わいます。



「HINOMA」という名前は「日の間」とも表され、木漏れ日や月明りが移ろうように、自然のリズムのなかで過ごす時間を大切にしてほしいという願いも込められているそうです。森の空気を吸い、まちを歩き、萩の木で作られた器に触れて食事を味わう。そんなひとときから、萩の新たな一面を感じられると思います。

【あげる！はぎビズ】
萩市ビジネスチャレンジサポートセンター
【TEL】**090-7130-4520** 【MAIL】info@hagibiz.net
【HP】https://hagibiz.net/info/
【相談時間】9:00～17:00
【定休日】日曜日、月曜日、祝日、年末年始
〒758-0022 山口県萩市大字浜崎町209番
萩市インキュベーションセンター内

はぎビズHP
ブログで情報発信中♪

はぎビズだより
バックナンバー